

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0895200012		
法人名	医療法人社団 三位会		
事業所名	グループホーム yahho		
所在地	茨城県神栖市高浜 2 4 9 4 番地 1 2 (電 話) 0299-93-8600		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町 1 9 1 8 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】 (平成20年8月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月8日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	10	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 三位会 人見医院 (社) 白十字会 白十字総合病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に密着したグループホームの必要性を重視し「(1)人権の尊重、その人らしい有り方を目指す。(2)個別のケアを行い安定した生活の回復を目指す。(3)社会交流、地域の一員として暮らすことを目指す。」を基本理念としてホームを設立し、運営している。
また母体が地域の医院であるため地域医療にも貢献し、利用者や家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を全職員に周知するとともに、改善課題については運営改善会議に諮るとともに、重度化・看取りに関する指針を定めたり、栄養士を配置するなどできるところから改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は外部評価の意義を理解するとともに、管理者が作成した自己評価を全職員に回覧し、意見を聴取している。 外部評価の結果をサービスの質の向上に活かせるよう更なる取り組みを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3カ月ごとに開催し、利用者や家族からの要望聴取や事業所の取り組みなどを報告しているが、地域を代表する自治会長や民生委員の方々に参加を依頼するとともに2ヶ月に1回開催することを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の家族が地域に在住しているため面会の頻度が多く、その都度ホームでの暮らしぶりなどを報告している。 金銭管理報告は毎月行うとともに、定期的に発行している広報誌や行事などで撮った写真を添えて送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 納涼祭(花火大会)などの行事で地域の老人会やボランティアの人々と交流している。 地域の高校生がボランティア活動の場としてホームを活用している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは地域に密着し地域の人々と親しむ機会を設けることで、地域に認知症高齢者を理解し受け入れてもらうように努めることを基本理念の一つとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は利用者に対する人権の尊重や個別ケア、社会交流の基本理念を共有し、職員会議や各委員会などで話し合うとともに理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭（花火大会）などの行事で地域の老人会やボランティアの人々と交流している。地域の高校生がボランティア活動の場としてホームを活用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価の意義を理解するとともに、管理者が作成した自己評価を全職員に回覧し意見を聴取している。	○	外部評価の結果をサービスの質の向上に活かせるよう更なる取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催し、利用者や家族からの要望聴取や事業所の取り組みなどを報告している。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することを期待する。 また、地域を代表する自治会長や民生委員の方々の参加も期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と密接に連絡を取り合い、課題解決の相談や助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族が地域内に在住しているため面会の頻度が多く、その都度ホームでの暮らしぶりなどを報告している。 金銭管理報告は毎月行うとともに、定期的に発行している広報誌や行事などで撮った写真を添えて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での話し合い、意見箱や苦情受付ノートを設置などで利用者や家族の意見を汲みあげている。 家族等の具体的な意見や苦情を運営に活かすまでには至っていない。	○	無記名のアンケートを実施し、家族等の意見や不満を汲みあげ、意見等に対応しながら信頼関係を構築することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代を最小限に抑えるとともに2ユニット共通の勤務ローテーションを組み、馴染みの関係づくりや家庭的な雰囲気づくりに配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、経験や習熟度に応じた研修受講の機会を設けている。	○	職員が日常的に学ぶOJTの活用や必要に応じた内部研修の実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は運営者や管理者間で行われているが、職員との交流は行われていない。	○	同じ悩みや課題を抱える同業者と交流し情報交換や勉強会、ネットワークづくりなどを通じてサービスの質の向上に活かすことが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたり利用者や家族に事前にホームを訪問してもらうほか、職員が自宅を訪問するなど利用に関する面接や相談をしている。 利用予定者がホームを訪問した時は利用者とお茶を共にしてもらうなど馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生き生きした言動や行動を引き出す言葉をかけるとともに、いつも笑顔で接し明るい雰囲気で利用者が安心かつ安全に過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活の場を尊重し、なじみの家具の持込や生活習慣の継続を実現するなど、共同生活に影響のない範囲で利用者の暮らしを支援している。 利用者の意思表示が困難な場合は表情や反応、利用者の個人情報をもとに個別に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすための課題とケアの有り方について、家族や医師、看護師と連携しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者や家族の意向を確認して作成しているが、状態に変化があった場合において、介護計画を十分に見直すまでには至っていない。	○	現状に合った介護計画となっているか、不足している援助はないか、不必要な援助で利用者の残存能力を阻害していないかなどモニタリングを実施し、現状に即した介護計画に見直すことを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携病院から看護師が訪問することにより、体調の変化にすばやく対応する体制になっている。 遠方からの面会家族の負担を軽減するため、最寄の停留所まで送迎支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を事前に聞きかかりつけ医を確認している。 週1回母体医療機関の往診があり、助言や相談の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の有り方について看取りに関する指針や同意書を作成するとともに、医師や看護師、介護士などと連携体制を整えている。 母体の病院と医療連携している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などで自尊心を傷つけないよう配慮している。 居室の掃除や衣類などの洗濯、持ち物の整理や補充などは利用者の意思を確認したうえで支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースにそって見守りしながら散歩や会話、レクリエーションを共に行うことを心がけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べこぼしに対してはスプーンを使ったり、小さ目の食器を使用することにより自力で食べやすくなるよう工夫している。 利用者一人ひとりが盛り付けや配膳・下膳、お茶くみ、テーブル拭きなどの役割を担っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関する不安や拒絶に対し、過去の習慣などを参考に入浴できるよう支援している。 毎回香りの違う入浴剤を使用し入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝いや洗濯物を干したり畳んだり、カーテンの開閉や草花の手入れなど利用者一人ひとりに役割を担ってもらい安全にできるよう見守り支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は庭でお茶を楽しむほか、外食や買い物の支援をしている。 近隣の散歩を日常的に行い、段差や自動車、自転車への注意をうながすなど安全に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は日中居室や玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しているが、交通量が激しいため正面玄関は施錠している。	○	利用者の安全を凶るとともに、家族等訪問者に対する施錠方法を工夫することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成するとともに、年3回の防災訓練や避難訓練、緊急連絡訓練を実施している。	○	火災訓練は行っているが地震や水害に対する防災マニュアルの作成が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し把握している。 利用者の栄養バランスについて栄養士に定期的に相談するとともに、栄養不足にならないよう利用者ごとに支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は温かみのある絵柄の壁紙を選び、居室に木製の引き戸を使用して家庭的な雰囲気づくりをしている。 陽射はロールカーテンで調節し、時間や季節ごとにこまめに調整している。	○	トイレや洗面所の換気を行うなど臭気への配慮が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品が持ち込まれ、親しみやすい雰囲気づくりに配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。